

平成 28 年度第 3 回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録

日 時：平成 29 年 3 月 14 日（火）10 時 00 分－ 11 時 40 分

場 所：京都大学宇治キャンパス 宇治研究所本館 S 棟 5F

防災研究所大会議室(S-519D)

出席者（敬称略）吉田、河島、大石、中川（議長）、遠田、岡田、佐藤、
戸田（代理：尾花）、山本（代理：朝位）、山中、塚原、竹林、橋本、小野、
川池、多々納、井口、佐々、三隅、辰己、大西

オブザーバー（敬称略）：廣岡（前議長）、西上、臼田（代理：三浦）

（事務局）：平田、河津

配付資料

- 1 平成 28 年度第 3 回京都大学防災研究所自然災害研究協議会出席名簿
- 2 平成 28 年度第 2 回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録（案）
- 3 自然災害研究協議会本部平成 28 年度活動報告/平成 29 年度活動計画
- 4 自然災害研究協議会各地区部会報告
資料 4-1 北海道地区、4-2 東北地区、4-3 関東地区、4-4 中部地区、
4-5 近畿地区、4-6 中国地区、4-7 四国地区、4-8 西部地区
- 5 平成 28 年度 自然災害研究協議会 予算執行状況
- 6 平成 29 年度京都大学防災研究所自然災害研究協議会委員名簿（案）

- ・協議会開催に当たり京都大学防災研究所議長中川一教授より挨拶がなされた。
- ・橋本委員より、本協議会の出席者（代理）の確認がなされた。

議 事：

1. 前回議事録の確認（資料 2）
橋本委員より、議事録（案）の説明があり、了承された。
2. 協議会本部・平成 28 年度活動報告と平成 29 年度活動計画案（資料 3）
橋本委員より、資料に基づき、報告がなされた。

（平成 28 年度の主な活動）

- ・第 53 回自然災害科学総合シンポジウム開催（H28. 9. 22-23 参加者 47 名）
- ・河川災害シンポジウム開催（H29. 3. 15 土木学会水工学委員会との共催）
- ・国際展開調査として、世界防災研究所連合(Global Alliance of Disaster Research Institute, (GADRI))と連携し第 3 回世界防災研究所サミット（H29.3.19-21 京大

おうばくプラザ他)を開催。(詳細について配布資料により、多々納委員より説明があった。)

- ・突発災害調査：熊本地震災害
- ・防災研究所共同利用・共同研究拠点重点推進共同研究による調査：
北海道羅臼町で発生した斜面災害、岩手水害調査、熊本地震による熊本城石垣被害の地盤調査
- ・後援名義： International Workshop on 2016 Kumamoto Earthquake - Japan-US Joint Workshop (H29.3.6)、報告書は、届き次第メーリングリストで回覧。防犯防災総合展 in KANSAI 2017 (H29.6.8-9)。
- ・河川災害に関するシンポジウムについて竹林委員より説明があった。

(平成 29 年度の主な活動計画)

- ・第 54 回自然災害科学総合シンポジウムの開催。
- ・河川災害シンポジウムの開催(平成 30 年 3 月 5 日(月)岡山大学)
- ・人材DB：大西委員より、資料 3-2 に基づき説明があった。人材DBシステムは、古いソフトウェアを利用しており、セキュリティ上のリスクから外部への公開を見合わせている。ソフトのアップデートだけでは対応できず、安全に再運用するためには、システムを完全に作り直す必要がある。
現在では、ほとんどの各研究者のプロファイルがインターネット上で検索できるようになっており、現行のシステムを見直し、メーリングリストの活用等、代替的方法の検討の契機としてはどうかとの提案があった。
事務局から、各地区部会でメーリングリストの整備・配信の了解等にご協力をいただき、協議会にある情報を速やかに関連する研究者に配信する方向で考えていきたいとの意見があり、了承された。
- ・データベース SAIGAI：大西委員より、資料 3-2 に基づき説明があった。
データベース SAIGAI は、災害についての資料を残すために運用しているが、現在は、川方先生(立命館大学、元巨大災害研究センター教員)がボランティアでデータベースの更新を行っている。(平成 27 年度の新規登録は 240 件。アクセス数は 1978 件。)
登録は、10 万件を超えているが、登録されているもののうち、オンラインで公開されているものも少なくない、一方で、被災地域の地元の方々が取りまとめた記録等、一般に流通しない書誌は、防災研究にとって重要である。
しかしながら、災害関係のデータベース化は、他大学、他機関においても行われており、データベース SAIGAI 独自の意義が明確でないため、独自の役割を再定義し、その上で、必要となるリソースの見積、実施体制を検討する必要があるのではとの提案があった。

三浦オブザーバーより、防災科学技術研究所で保持している災害関連の写真

は、民間のウェブ（yahoo 災害カレンダー）上で公開している。また、現在、文部科学省研究開発局の地域防災対策支援研究プロジェクトでアカウントを制限した上で公開する地域防災ウェブを作成しており、連携していただくと考えている。その意味でも S A I G A I にしかないデータは、どのようなものか知りたいとの意見があった。頂いた意見を踏まえ、事務局より、次年度に方向性を定めた案を提示することとなった。

- ・突発災害調査の実施
- ・国際展開調査：平成 29 年度はサミット等の大きな行事の予定はない。UKADR（イギリス版の自然災害研究協議会 2017 年 1 月発足）との連携について考えていきたい。（多々納委員）

3. 各地区部会・平成 28 年度活動報告（資料 4）

各地区部会から活動報告がなされた。主な報告項目は以下のとおりである。

- 北海道地区：幹事会（年 2 回）開催、地区総会開催、自然災害科学資料センター報告第 30 号冊子体印刷発行・WEB 公開、地区フォーラム開催、特別講演会開催。
- 東北地区：東北地域災害科学研究集会および東北地区部会総会開催、「東北地域災害科学研究」第 53 巻発行、WEB 公開（4 月予定）。
- 関東地区：彩の国市民科学オープンフォーラム開催。
- 中部地区：三重県・三重大学 みえ防災・減災センター 研究成果公開シンポジウム開催、減災連携シンポジウム開催、防災シンポジウムの開催、自然災害科学中部地区研究集会の開催、げんさい楽座の開催。
- 近畿地区：災害メモリアルアクション神戸 2017「神戸のコトバ」共催、古地震研究会共催、幹事会（2 回）開催。
- 中国地区：防災プログラムの実施、地区部会研究発表会実施、自然災害研究協議会中国地区部会 研究論文集（第 3 号（48 項））の発行、文科省「地域防災対策支援研究プロジェクト」との連携。
- 四国地区：昭和 51 年台風 17 号災害 40 周年講演会と現地見学会開催、平成 28 年自然災害フォーラム&第 11 回南海地震四国地域学術シンポジウムの開催、九州・中国・四国地域防災連絡会議への参加、四国災害アーカイブ事業、災害調査（鬼怒川決壊水害、鳥取県中部地震）、四国地区部会の開催。
- 西部地区：第 2 回西日本防災・防犯危機管理展におけるセミナー開催およびパネル展示、西部地区部会研究発表会開催、西部地区部会報研究論文集（第 41 号）の発行。

4. 平成 28 年度決算（資料 5）

橋本委員より、資料に基づき、平成 28 年度予算執行状況の報告があり年度中に全額執行の予定である旨の説明がなされた。

5. 平成 29 年度の委員会構成（資料 6）

橋本委員より、資料に基づき、平成 29 年度自然災害研究協議会委員について説明がなされた。協議の結果、提案のとおり了承された。

6. 第 54 回自然災害科学総合シンポジウムについて

橋本委員より、資料 3-1 の活動計画に基づき、説明がなされ、協議の結果、他学会の開催日等を考慮し、平成 29 年 9 月 14 日（木）に開催予定、京都を開催場所として調整することとなった。シンポジウムの内容については、4 月の協議会に提案の予定。

7. 今後の予定（平成 29 年度第 1 回自然災害研究協議会開催について）

橋本委員より、第 1 回協議会は、平成 29 年 4 月 17 日（月）13 時～京都大学宇治地区研究所本館 S 棟 5 階 防災研究所大会議室(S-519D)で開催される旨の説明がなされた。

配付冊子等： DPRI Newsletter No. 82, No. 83

平成 28 年度河川災害に関するシンポジウム（席上配布）

世界防災研究所サミット(GSRIDRR)と世界防災研究所連合(GADRI)総会の開催について（A4・2 枚、A3・1 枚 席上配布）